

授業概要

『世説新語』は六朝宋の劉義慶が編纂したとされる志人小説であり、後漢から東晋までの人物の言行や逸話が集められている。日本では平安時代に早くから将来され、日本文学に多大な影響を与えたことでも知られている。また、『世説新語』の通行本には梁の劉峻の注が加えられているが、佚書に基づく記述もあり、資料的価値は極めて高い。この授業では、『世説新語』という作品について概説したうえで、人物ごとに文章を取り上げて読解していく。そして、激動の時代を生きた人々の反骨精神や機知に富んだ言行はどのような背景で生まれ、享受されていったかについて講義する。

授業計画

第1回	『世説新語』概説①（作品と構成）
第2回	『世説新語』概説②（『世説新語』と日本文学）
第3回	李膺
第4回	鄭玄
第5回	曹操①（『世説新語』識鑑を中心に）
第6回	曹操②（『世説新語』仮譎を中心に）
第7回	楊脩
第8回	孔融と二子
第9回	華歆と王朗
第10回	諸葛亮と北伐
第11回	竹林の七賢①（『世説新語』任誕を中心に）
第12回	竹林の七賢②（嵇康と山濤）
第13回	王徽之
第14回	潘岳と陸機
第15回	王祥
第16回	筆記試験

到達目標

『世説新語』の読解を通して、中国の古典や歴史、人物に対する理解や関心を深めることを目標とする。また、漢文の語句や構文など、読解するうえでの基礎的な知識を会得することも目指す。

履修上の注意

授業ではプリントを使うため、履修者は毎回出席してメモをとること。また、授業毎にリアクションペーパーの提出を課すため、しっかり授業を聞いて記入すること。遅刻や私語については受講態度から減点する。

予習・復習

授業後には資料やメモの整理など必ず復習を行い、筆記試験に備えてほしい。

評価方法

受講態度30%と筆記試験70%によって総合的に判断する。

テキスト

プリントを配布する。また、参考文献については授業内で適宜紹介する。